

バリ、特に今回足を運んだ山側のウブドは、アート伝統芸術の中心でもある。

ウブドの街なかを歩いて行くと、街なかでも緑の多さが目に着く。モンキーフォレスト通りという中心部でも店舗・寺院・住宅の正面・片隅には必ず緑を配し、レイアウトされている。ただ単純に木が植えてあるというものではなく、店舗前のアプローチでも、ちょっとした草木で、雰囲気良くレイアウトされている。グリーンの有無により大きく変わる。普段の仕事でも、当然のごとく、グリーン建物の影響が大きいのは分かっているが、再認識させられる。

繁華街ということもあり、住宅は少し奥まったアプローチの奥にあるが、そのアプローチ或いは路地は単純な通路だけでなく、演出空間になっている。(バリの場合、派手さではなく、素朴なものが多く共感もてる。)住宅の場合通路玄関正面には、必ずと云っていい位、神様を奉っていてその前を通過して家の中に入る(自然の中に生き、神への信仰心が非常に強いのが分かる。)口の字の通路に何棟かの家が面していた。

路地通路は、ヒューマンスケール(人がすれ違える巾)であり草木が、片隅に植えられている事で、路地通路部分に影を落とし、風を生み、快適な空間になっている様な気がする。

又路地は街なかから外れると直線だけではなく、地形なりに曲がりくねった通路もあり、変化にとんでいる。街中の路地も要所で膨らみのオープンスペースがあった。

通路床面もちょっとした植え込みで変化し、心地の良い空間を演出している。

単純で短いアプローチであっても、人の気持ちを良くする演出には、緑・グリーンをいかに配置し空間作りするか、これを今後の課題として、取組んで生きたい。

